

運の平等主義の擁護

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-07-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高梨, 洋平 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10291/19535 |

運の平等主義の擁護
A Defense of Luck Egalitarianism

政治学専攻
高梨 洋平

1 問題意識と目的

本論文では、政治哲学における運の平等主義の擁護を試みる。運の平等主義とは、「ある人物が自身の過失や選択を通じてではなく、他の人々よりも暮らし向きが悪いならば、それは悪である」というアイデアに基づく平等理論であり、過去数十年にわたって国際的な注目を集めている。運の平等主義は数多くの支持者を生んだ一方で、人々の選択と責任に基づく財の分配を主張するその立場は、これまでに様々な批判の対象となってきた。そうした批判の急先鋒に立ったのがアンダーソンであり、彼女の議論を契機として、運の平等主義はその理論的妥当性を広く問われることとなった。アンダーソンによって、人々の選択と責任を過度に重視する運の平等主義は、自らの責任で苦境に陥った人々を見捨てる過酷な政策を正当化するという批判が提起された。これに対して、運の平等主義の支持者と批判者のどちらの陣営においても、アンダーソンの批判に対して、従来の運の平等主義では適切な応答ができないと見なす論者は多い。そのため、運の平等主義の支持者達は、運の平等主義的責任原理以外の諸原理に訴える多元主義的運の平等主義へ転換することによって、その理論を更に洗練してきた。しかし、そうした多元主義の採用は、アンダーソンの批判に対する単なるアドホックな対処に過ぎないという新たな批判を招くこととなった。日本国内の先行研究においては、アンダーソンを擁護し運の平等主義を批判する陣営が多数派を占めているのが現状である。このような学問状況は、『*A Theory of Justice*(1971)』で知られるジョン・ロールズの影響が現在でも色濃く残っていることに由来すると考えられる。アンダーソンはロールズ主義者として知られ、幾つかのアイデアを継承している。本論文は、こうした学問状況に対して、運の平等主義の側からの反論として一石を投じるものである。日本国内の研究では、運の平等主義の立場をアンダーソンと同様に過度に先鋭化したものとして扱う傾向にあるが、筆者にとって、これは運の平等主義の理に適った解釈ではない。アンダーソンの運の平等主義解釈には、運の平等主義に対する根本的な誤解が存在すると筆者は考えるが、先行研究においてこれを本論文のように包括的に指摘したものはない。そこで、本稿では、この間隙を埋めることで運の平等主義を擁護する。本論文で提示されるのは、様々な誤解を除去することによりラディカルな含意を和らげた穏当な形態の運の平等主義であり、この解釈が運の平等主義の根本的なアイデアと矛盾しないことを示すことで、アンダーソンの批判を回避可能となると筆者は主張する。また、運の平等主義が依拠している平等の価値に対しては、パーフィットによる水準低下批判が提起されて以降、有力な競合理論の登場と相まって厳しい批判が向けられてきた。国際的な研究においては、水準低下批判が平等主義にとって決定的な批判でないという点は、複数の論考において指摘されているものの、日本国内においては今なお非常に強力な効力を持つものと見なされる傾向にある。本稿では、上述のアンダーソンの批判に対してのみならず、水準低下批判に対しても運の平等主義を擁護することで、こうした学説状況に軌道修正を促すことを目的とする。

2 構成及び各章の要約

第一章において、本稿の問題意識と現在までの学説状況を確認する。第二章では、運の平等主義の展開をその起源から辿り、選択的運や自然的運といった重要概念の定義や、運の平等主義の目的を確認する(2-1)。また、従来の議論が運の平等主義の補償アプローチに対して過度に焦点を当ててきたことを指摘し、より柔軟な運の平等主義の解釈を採用すべきだという見解を提示する。次に、初期の運の平等主義の中心的主題であった「何の平等か？」に関する議論を扱う(2-2)。この中で、代表的運の平等主義者の理論間の差異を、高価な嗜好の例などを通じて概観する。筆者の立場としては、運の平等主義者は道徳的に恣意的なあらゆる影

響の除去や補償を目指すのではなく、人々にとっての不利益を構成する重要な事柄に限定した議論をすべきだと主張する。続いて、運の平等主義の最新の議論の一つであるセガルの理論の特徴を、従来の運の平等主義との比較を交えて確認する(2-3)。ここでは、セガルの運の平等主義は人々の責任の追及を根本的な目的に据えないため、従来の運の平等主義が陥った反直観的含意の幾つかを回避可能になると述べる。最後に、運の平等主義に向けられてきた主な批判と、その代替理論を考察する(2-4)。代表的な批判としては、自由意志と決定論、選択的運と自然的運の区分問題に関する運の平等主義批判を挙げ、これらの問題は運の平等主義に対する致命的な批判ではないと主張する。これに関連して、ローマーとヴァレンティンの理論を取り上げ、運の平等主義の立場との差異や、それらの理論の問題点を指摘する。

第三章では、分配原理としての平等主義に関する議論を主題とする。初めに、目的論的平等主義の定義を確認し、水準低下批判の論点を明らかにする(3-1)。次に、水準低下批判に対して目的論的平等主義が採りうる応答として、テムキンや広瀬らの議論を挙げ、それが決定的な批判ではないと論じる(3-2)。さらに、ヒューマーの平等主義批判を扱い、パレート原理の直観適合性に訴える彼の議論もやはり決定的なものではないと述べる(3-3)。第四章においては優先主義に焦点を当て、まずその特徴を明らかにする(4-1)。この中で、目的論的平等主義と優先主義には根本的な差異が存在する一方で、現実における適用においては両者には実質的な違いはないことなどを論じる。続いて、優先主義にも水準低下批判が向けられる可能性を示唆する(4-2)。第五章では、初めに十分主義の特徴を考察する(5-1)。この検討を通じて、十分主義を構成するポジティブテーゼは他の分配原理とも容易に両立可能であると指摘し、ネガティブテーゼが十分主義の特異性の源泉であると主張する。次に、代表的な十分主義者であるフランクファートの理論を検討し、頭数十分主義と上限十分主義に分類されるフランクファートの十分主義は、過剰上昇移転や無関心批判に脆弱だと論じる(5-2)。また、これらの問題点を考慮した広瀬の価値論的十分主義とその批判を確認する。続いて、クリスプの理論の考察に移る(5-3)。クリスプの理論を含む十分主義一般に関して、ネガティブテーゼに伴う根本的恣意性を指摘し、これを批判する。次に、日本国内における十分主義の理論として、保田の十分主義を取り上げ、その特徴と問題点を指摘する(5-4)。最後に、十分主義も水準低下批判と同種の批判に脆弱であると論じる(5-5)。

第六章では、アンダーソンの民主的平等論と運の平等主義批判の検討を進める。初めに、アンダーソンの民主的平等の特徴を概観し、同時にロールズの理論による影響にも言及する(6-1)。続いて、運の平等主義に対する過酷批判の論点を確認し、運の平等主義による非多元主義的応答を試みる(6-2)。また、アンダーソンによるもう一つの運の平等主義批判である尊敬欠如批判に対しては、平等主義的エートスを根拠とした反論を行う(6-3)。次に、アンダーソンに対する運の平等主義の反論の中でも、多元主義的運の平等主義による応答を検討する(6-4)。また、多元主義的運の平等主義者の一例としてコーエンを挙げ、彼の理論が関係論的平等主義と親和的な関係にあることを示し、関係論的平等主義が運の平等主義の前提条件として据えられるべきだと主張する。最後に、多元主義的運の平等主義に対するアドホック批判を中心に取り上げ、これに反論する(6-5)。第七章では、アンダーソンによる運の平等主義批判の中から、不正義の概念に焦点を当てた議論を扱う。まず、運の平等主義が想定する不正義の概念に対するアンダーソンの批判の論点を確認する(7-1)。続いて、これらの批判が依拠するアンダーソンの運の平等主義解釈の問題点を指摘する(7-2)。次に、アンダーソンが提示する不正義を構成する要件と、彼女の理論との不整合という問題点を挙げる(7-3)。不正義概念の検討を終えたのち、アンダーソンと運の平等主義における正義概念を考察し、両者の宥和の可能性を示唆する(7-4)。最後に、アンダーソンのウィルキンソン批判における解釈上の問題点を指摘することで、彼女によるウィルキンソン批判を経由したコーエン批判に反論する(7-5)。以上の点を踏まえて、アンダーソンによる運の平等主義批判は成功していないと結論する。そして、両者の間に差異は残るが、根本的と呼べるほどのギャップは存在しないという見解を示す。

以上の議論を踏まえて、運の平等主義は、それに対する主要な批判である水準低下批判、アンダーソンの批判のどちらにも適切に応答可能であり、優先主義と十分主義という競合原理との比較においてもより理に適った立場であることから、筆者の主張する運の平等主義の理論的頑健性が示されると結論する。